

先生と子どものための

Fun with

ENGLISH

in 新潟 Vol.3

「個別最適」にも
「協働的」にも学ぶ

目次



教室は、ともに学び、
まなざしを共有する場所

新潟市立白南中学校 山崎 寛己



「個別最適な学び」とは・・・

新潟市立石山中学校 安宅 いずみ

生徒が目を輝かせて取り組む授業を目指して

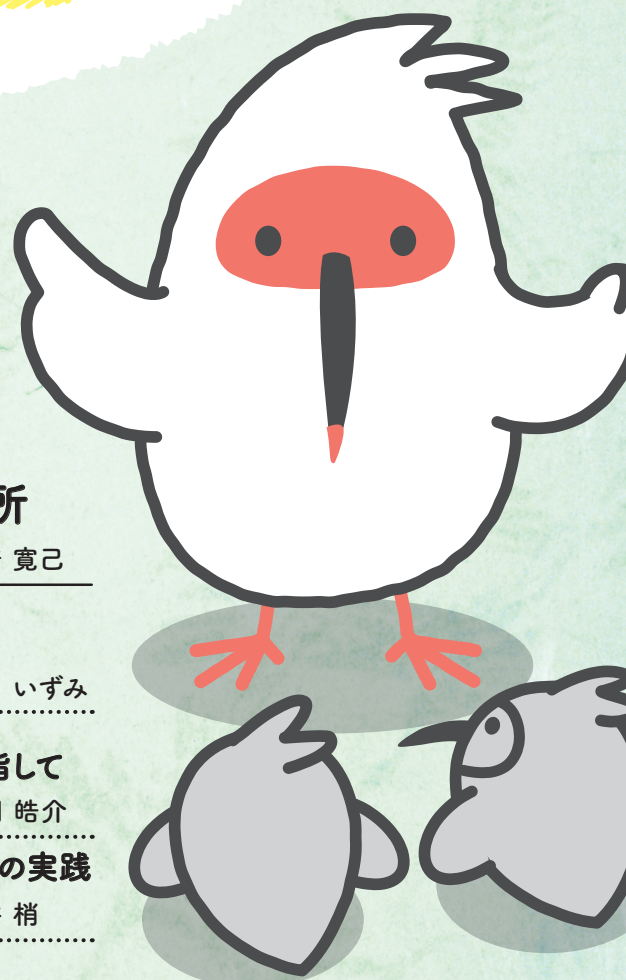
新潟市立藤見中学校 風間 皓介

生徒が英語を楽しむ「個別最適な学び」の実践

新潟市立新潟柳都中学校 櫻井 梢

学びが生まれる教室に

新潟市立白南中学校 山崎 寛己



知が啓く。

啓林館

教室は、ともに学び、まなざしを共有する場所



新潟市立白南中学校 山崎 寛己



これまでのFun with English in 新潟

おかげさまでこの冊子『Fun with English in 新潟』もVol.3となりました。元々は、新潟の教育現場で日々頑張っておられる先生方に、県内で進められている英語教育の実践を広く知っていただきたいという思いで作成を始めたものでした（それに加えて「実は啓林館も小中学校の英語検定教科書を作っているんですよ!」という宣伝をする目的もありました）。参考までに、これまでのテーマを載せます。

- 第1弾：小学校と中学校のつながり・連携を考える
- 第2弾：言語活動を通して学びを連携させる

過去2回はいずれも「連携」をテーマに小学校、中学校、高等学校、大学までそれぞれの現場の教員たちが普段考えていることや行った実践を紹介してきました。そして第3弾である今回は、次のようなテーマとなりました。

第3弾：「個別最適」にも「協働的」にも学ぶ

今年度から新潟市の中学校教育研究協議会・英語部の部長になりました。今までも研究部には所属しており、そこでずっと感じていたことが「新潟にはこれだけ熱心に、一生懸命活動されている先生方がいる」というものでした。しかし、新潟の先生方は県民性なのかどうか分かりませんが非常に控えめです（その結果、英語教育実施状況調査なんかでもかなり humble な結果が出ていますよね…これ以上はやめておきます）。素晴らしい実践や熱心な先生方が県内にたくさんありますよ、と元気づけたい気持ちが強くなります。

2021年に中央教育審議会の答申内で登場した「個別最適な学び」と「協働的な学び」というキーワード以降、さまざまな立場のさまざまな方々が発信をしています。なかなか「これが正解!」というものはないと思うのですが、だからこそ我々は日々目の前の児童生徒のために授業を通して力を高めたい、と試行錯誤することができます。

今回は、そんな「個別最適な学び」と「協働的な学び」の考え方と実践例を新潟市の先生方で順に紹介していきます。

今あらためて、学校の役割とは

授業づくりネットワーク理事長の石川晋さんが先ほどのバズワードをめぐる状況について、「個別最適な学び」が盛り上がっていて、子どもたち同士の学び合いや関わり合い、協同（協働）の価値はどうなのだろうという問題提起をされています。私もまったく同じ思いです。

個別に学習することができるツールや方法はたくさんありますが、一方でいくらそれらがあっても学びに向かいにくい生徒が教室にはいるものです。私は、彼らが学びに向かうためのスイッチを入れるのは、クラスメイトの存在であると確信しています。もちろん私たち教員の働きかけや支援がそうさせる場合もあります。しかし、それはきっかけに過ぎず、その後も継続して学んでいくための大きな推進力はクラスや、クラスメイトによる力が大きいと感じます。学校でしかできないことの1つは、**つながりがある場での学び**だからです。

ともに学ぶからこそ、共通のまなざしを得られる

皆さんの教室内で、生徒は次のような場面があるのではないのでしょうか。

- クラスメイトとの会話の中で、言いたい表現が英語で言えない状況が生まれた。
- クラスメイトとやり取りをしている時に、相手何気なく言った単語が分からなくて困っていた。
- 教科書内の会話の続きを書いている時に、表現したい内容を英語でどのように伝えたらよいか分からなかった。

こうした場面で、ともに学んでいるからこそ考える絶好の機会を作ることができます。例えば「何と言いたかったの?」を教室内で考えることで、新たな表現の獲得につながりますし、ノートで創作をしている時に面白い作品を見つけたら「〇〇さんのノートがすごいよ」と写真を撮って画面に投影することでクラスメイトの面白い作品と一緒に味わい、同時に彼らの感性を耕すことができます。そうした日々の営みが、教室全体の雰囲気となり、英語学習や英語を用いる時のまなざしとなります。

その前提として動機づけを高めたい

上記のようなまなざしを共有するためには、前提として生徒のやる気を引き出す授業づくりが求められます。何とか彼らの動機づけを高めたいと学ぶ中で出会ったものがジョン・ケラーのARCS（アークス）モデルです。教室内で指導者が意識すべきこととして① Attention（興味）、② Relevance（関連）、③ Confidence（自信）、④ Satisfaction（満足）の頭文字を取ったもので、授業づくりに大いに役に立ちます。

「やらされる学習」から「やりたい学習」へ

以前、使用している教科書の話と同僚としていた時、「〇〇（人物名）って△△のことが好きだよ」と言われてハッとしました。言われてみれば校外学習の時も一緒にご飯を食べ、落語ショーを観に行かないかと誘い、あまり重要ではなさそうなシーンの挿絵でも親密に談笑していることが多い2人だったので「これは確かに」と思ったのです。生徒に早速その話をしてみると、「本当だ!」「ここもそうだ（教科書をめくり報告してくる）」などと興味を持つきっかけになったようです。

それ以来、音読練習や言語活動の際の状況設定として、教科書登場人物の関係性を大いに活用しました。遊園地に誘うシーンをスキット作成にして少しアレンジし、ペアで上手な断り方を考えたり、教科書の対話文の続きを考えたりしています。

また、関係代名詞を扱う学習で、名詩人になろうと題して次のような練習活動を行いました。

あなたにとって本当の友達とは？考えましょう。
A true friend is someone who _____.

教室には、生徒が一所懸命に辞書を引きながら書いたり、苦手な生徒がサポートを求めて「こう言いたいんだけど」と相談する姿などがあちこちで見られました。そうしてできた作品を黒板に集めて鑑賞します。

- ・A true friend is someone who is always in your heart.
- ・A true friend is someone who makes me smile when I am sad.
- ・A true friend is someone who doesn't judge each other.

「おお〜!」と歓声が上がったたり、何も言わなくても微笑みが浮かんだりする作品がたくさん生まれます。

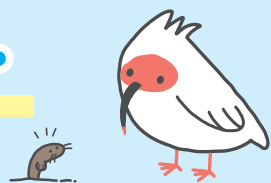
教科書人物やクラスメイトに興味を持ち (A)、自分ならこうかなと考え (R)、愛とユーモアを持ったアレンジや少し背伸びした表現が生まれます。それが自分にもできたという自信につながり (C)、達成感があって次もやりたい学習になれば最高です (S)。

まずは教室内の生徒同士が互いに認め合い、学び合うことができるあたたかい環境を作りたいものです。そして、生徒と教材の関係を見つめ、生徒の生活体験から捉えてみると、**やらされる学習から生徒がやりたい学習・活動**につなげられる気がします。こうした互いの考えや意見の違いを大切に作る教室が、新潟の中でどんどん生まれることを願っています。

参考文献
石川 晋 (2025)「個別化の前提に協同があるはずなのでは?」『授業づくりネットワーク』51. pp.15-19. 学事出版株式会社。



「個別最適な学び」とは・・・



新潟市立石山中学校 安宅 いずみ

「個別最適な学び」というパワーワード。あちこちで目にしたり耳にしたりする機会の多い今日この頃。様々な資料に目通せば、「なるほどそうか」と納得はするものの、実際の教育現場において生の生徒達を前にした時、「はて、どうしたものか」と悩む日々。目の前の多様な生徒の誰一人取り残さない英語教育の実現のために、指導をどう工夫したら良いのか、一緒に考えてみませんか。

はじめに

近年、学校教育では一人ひとりの児童生徒の能力や興味・関心、学習状況に応じた「個別最適な学び」の実現が求められています。学習指導要領では、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることが重要であると示されており、中学校英語科においても、従来の一斉授業だけではなく、生徒一人ひとりの実態に応じた指導が必要になります。英語学習では、生徒によって語彙力や文法理解、聞く・話す・読む・書くの四技能の習得状況に大きな差があります。そのため、同じ内容を同じ方法で学習するだけでは、理解が十分でない生徒と、より高度な学習を求める生徒の双方に対応することが難しくなっています。ここでは、個別最適化の指導の必要性和具体的な取り組み、今後の課題について考えていきます。

現状と課題

中学校英語教育では、「聞く・読む・話す（やり取り・発表）・書く」の四技能をバランス良く育成することが求められています。しかし、生徒の英語力には大きな個人差があり、一斉授業ではすべての生徒の学習ニーズに応えることが難しい現状があります。たとえば、英語に興味をもち積極的に学習する生徒は、教科書だけでは物足りなさを感じることもある一方で、小学校からの英語学習につまずきを感じている生徒は、授業の進度についていけず、英語への苦手意識を強める場合があります。また、学習意欲や家庭での学習環境にも差があり、それらが学習成果に影響を与えています。さらに、英語は積み重ねが重要な教科であり、一度理解できなかった内容がその後の

学習にも影響を及ぼします。そのため、生徒一人ひとりの理解度を把握し、それぞれに適した学習支援を行うことが重要になります。

指導の実践

・習熟度に応じた指導

教師が学習課題や教材、学習方法を柔軟に工夫し、生徒が自分に合った方法で学習できる環境を整えることが重要です。たとえば、習熟度に応じた課題を用意することが考えられます。

新出の文法指導の際、基礎的な内容を確実に理解するために、プリントの表面には基本問題を中心とした課題を提示し、全員が取り組むことを目指します。裏面には、理解が進んでいる生徒のために、発展的な課題を提示することで、それぞれに適した学習が可能になります。

また教科書本文の音読指導では、場面や目的に応じた読みができるよう、三段階程度のレベル別の音読シートを用意します。個人やペアなど様々な学習形態を通して練習を積み重ね、最終的には、生徒自らレベルを選び、音読練習の成果を提示します。

また、生徒自らそれぞれの学習目標を設定し、日々振り返ることで、主体的な学習につながります。

さらに定期テストなどで、「書くタスク」として、まとまりのある英文を書かせる指導をする際、ルーブリックを工夫することができます。たとえば、「外国から新潟に来る観光客におすすめの〇〇の紹介」というテーマで、7～8文程度のまとまりのある英文を書く課



題を設定します。「知識・技能」では、英文の「正確さ」に焦点を当て、「思考力・判断力・表現力」では、「構成や内容」を重点的に見取ります。併せて、全員が習得を目指す基本的な「定型表現」に加え、理解が進んでいる生徒用に、「チャレンジ表現」による加点を設定します。このことにより、生徒ひとりが自ら学習目標を設定し、練習を積み重ねることができます。

・ICTの活用

一人一台端末の整備により、ICTは個別最適な学びを支える重要な手段となっています。デジタル教科書や学習支援ソフトなどを活用することで、生徒それぞれの理解度に応じた学習が可能になります。

たとえば、リスニングの学習では、デジタル教科書の音源を、生徒自ら再生速度を調整したり、繰り返し聞いたりすることができるため、自分のペースで学習を進められます。

教科書本文の音読では、デジタル教科書の音読練習機能を活用し、家庭でも飽きずに繰り返し練習することができます。また練習の成果物として、録音した音源を提出することもできます。

また、学期に数回実施されるパフォーマンステストの指導においても工夫は可能です。たとえば、スピーキングテストでは、目標達成に向け、個やペアなど様々な学習形態で練習を積み重ねます。練習の過程では、一斉練習の他に、生徒自ら練習方法を選択する個別の練習場面を設定します。たとえば、①生徒とペア練習 ②教師とペア練習 ③ALT 録音の音源による個別練習、④音声認識機能を使用した個別練習など、複数の練習方法を用意します。こうすることで、生徒一人一人が自分に合った学習方法でゴールに向かうことができます。また練習の成果物として、録音や録画したものを提出することが可能です。このように、ICTを活用することで、限られた授業時間でも、効率



安宅 いずみ

新潟市中教研英語部の幹事や副部長として長年、新潟市の英語教育について、部員と共に研修を続けています。様々な年代の部員の方々と英語教育について学べることに感謝の日々です。変化の激しい現代において、「不易流行」の言葉を胸に、「変わらない普遍的な本質」と「新しいものを取り入れること」を見極める柔軟な姿勢を大切にしていきたいと思っています。



「個別最適な学び」とは・・・

的な指導が可能になります。

個別最適な学びと協働的な学びの両立

個別最適な学びは、一人で学習することだけを意味するものではなく、英語はコミュニケーションのための教科であり、他者との関わりの中で学ぶことも欠かせません。たとえば、授業では、最初に個人で英文を考え、その後ペアやグループで意見交換を行う活動が考えられます。個人で十分に考える時間を確保した上で協働学習を行うことで、生徒は自分の考えを深めると共に、多様な表現に触れることができます。また習熟度の異なる生徒同士が協力することで、教える側は理解を深め、教わる側は安心して学習できるという学び合いの効果も期待できます。このように、それぞれの学びは補完し合う関係にあります。



さいごに

個別最適化の指導では、教師の役割も変化していきます。知識を一方向的に伝えるだけでなく、生徒一人ひとりの学習状況を把握し、それぞれに適した学習機会を提供する学習支援者としての役割が求められます。そのためには、形成的評価の継続が重要です。小テストや授業中の発言、学習履歴などを活用し、指導方法を改善していく必要があります。また生徒自身の行う振り返りも自己調整学習を促進できます。

今回紹介した取り組みを含め、校内の英語科教員や新潟市中教研の部員の実践から学ぶことが大変多いです。今後も、授業実践やICTの活用方法、教材研究の共有が大切だと感じています。

参考文献 奈須正裕(2021)「個別最適な学びと協働的な学び」東洋館出版社

Profile



生徒が目を輝かせて取り組む授業を目指して



新潟市立藤見中学校 風間 皓介

「個別最適な学び」も、本冊子のもう一つのテーマである「協働的な学び」も、先生方がこれまでの実践に必ず取り入れられてきた要素だと考えます。以下の文章では、私のこれまでの実践の中から、この2つのテーマに関する実践を紹介させていただきます。

「生徒の目が輝く授業」の3つの要素

「生徒の目が輝いていない。」私が尊敬する先生から、以前、公開授業後にいただいた言葉です。とてもショックでしたが、それ以来、「生徒の目が輝く授業かどうか」が、授業作りの基準となりました。

そんな授業を目指し奮闘中の毎日ですが、これまでに出会えた生徒の目が輝いた瞬間を振り返ると、以下の3つの要素がありました。

- ① 本物の (Authentic な) 課題
- ② 「責任」と「貢献」がある協働的な活動
- ③ 個別最適な学びを実現する教師の支援

1つ目は、実践①で紹介する「本物の (Authentic な) 課題」です。英語を学習するのは「入試」のためと考える生徒も多いかもしれません。しかし、我々英語教師は、その本当の楽しさを知っています。ALTとのやり取りはもちろん、時には校外に出て外国人と交流するなど、生徒がワクワクする本物の課題を設定することが生徒の目を輝かせるための重要な要素です。

2つ目は、実践②で紹介する「『責任』と『貢献』がある協働的な活動」です。「協働的な学び」と聞くと、多種多様な学びの姿が思い浮かびますが、私はその中でも「責任」と「貢献」の2つの要素がある活動は、生徒の目の輝きが違うと感じました。

3つ目は、「個別最適な学びを実現する教師の支援」です。これからの英語教師には、「facilitator」や「coordinator」、「coach」など、様々な役割が求められます。特にタブレット端末の導入以降は、「teacher」以外のこれらの要素の重要性が高まっていると感じます。

前述のような、本物の課題や、生徒が生き生きと取り組める活動を設定した後は、共通のゴールを目指しながらも、そこにたどり着くための複数の方法を提示したり、理解度に応じたヒントを与えたりするなど、「個別の学び」の実現をサポートすることが重要です。また、活動の中でつまずいたり、困ったりしている生徒がいれば、それぞれの生徒に応じた「指導の個別化」を図り、適切なアドバイスや支援をしたり、勇気付けたりすることも、これからの英語教師に求められる大切な要素だと感じます。

実践① 京都で「新潟の魅力」を発信しよう！

1つ目の実践は、総合的な学習の時間とタイアップした、修学旅行先の京都で、外国人観光客に向けて新潟の魅力を発信してくる活動です。概要は以下の通りです。

- ① 1年生 2月～2年生 5月
新潟地域学習 (総合的な学習の時間)
- ② 2年生 2月～
パンフレット作成、生徒同士の対話練習
- ③ 2年生 3月
ALT、留学生との対話練習
- ④ 3年生 5月
京都で外国人観光客と交流 (修学旅行)

初めて課題を伝えた時の反応は、ポジティブなものばかりではなく、不安や緊張から、尻込みしているような反応もありました。しかし、それと同時に、生徒の目からは、「不安もあるけど、チャレンジしてみたい!」という期待や希望も感じ取ることができました。

まず、総合的な学習の時間を通して、すでに学習している新潟の魅力を、A4 のパンフレットにまとめました。その際、「京都にいる外国人の方が『新潟にも行ってみたい!』と感じるパンフレットはどのようなものだろう?」と問いかけ、相手意識を持たせました。次に、修学旅行に向けて、ALT や留学生の方々と相手に対話練習を行いました。「新潟に行ってみたいと思えたか?」という視点からフィードバックをいただき、パンフレットに修正を加えたり、どのような表現をすればより新潟の魅力が伝わるのか、生徒たちは思考錯誤しながら、練習を重ねるごとに少しずつ自信を付け、修学旅行では、外国人観光客に向けて新潟の魅力を発信してくることができました。

- ・今回の経験はとても特別だった。これからは、本番で話すときにうまく使えるかどうか基準として学習していきたいと思った。
- ・資料を作る時は、外国の方にもわかってもらえることを意識して作りました。インタビューは緊張しましたが、最後までやり切ることができて、とても達成感がありました。

生徒の感想から、本物のコミュニケーションを通して、英語を学習する目的が変化したことや、相手意識を持ってコミュニケーションをしようとする意識が高まったことなどがわかります。



教科書には、単元末課題や各課で学んだ内容を統合した課題である Project が設定されています。これらの活動を、生徒の目が輝く本物の課題に自校化できれば、生徒はもちろん、我々英語教師もワクワクする授業を展開することができるのではないのでしょうか。



風間 皓介

1984年新潟市生まれ。明治大学文学部卒業後、新潟県内の中学校や新潟県立教育センターでの勤務を経て、今年度より現職。前新潟市中学校教育研究会英語部長。新潟市マイスター。サッカーが大好き。



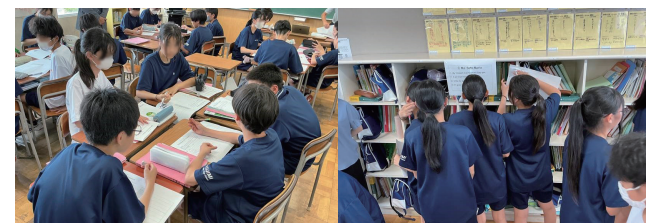
生徒が目を輝かせて取り組む授業を目指して

実践② リーディング活動「4コーナース」

2つ目の実践は、長文読解の授業を、どのように生徒の目が輝くものにするか、「4コーナース」と呼ばれる活動です。実践の概要は以下の通りです。

- ①見開き1ページの英文を段落などで4つに区切り、拡大コピーしたものを教室の4箇所に掲示する。
- ②各班で担当 (エキスパート) を決め、提示された問いに対する答えを、他の班の生徒と協力して読み取ってくる。
- ③読み取った内容を班のメンバーで伝え合う。
※長文の内容によっては、正しい順番に段落を並べ替える活動などを行う。

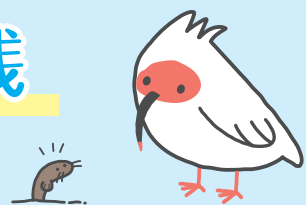
各段落の内容を読み取ってくる担当は、班に1人ずつしかいません。個別の活動には、意欲的に取り組むことができない生徒も、この活動に対しては、責任感をもち、他の班のエキスパート同士で協力しながら、何とか英文を読み取り、班のために貢献しようと、必死に英文と向き合う様子が見られました。



AI時代に外国語を学ぶ本質的意義

生成 AI は、すでに英語学習に欠かせないものとなり、これからますます進化していきます。しかし、そんな時代だからこそ、学習指導要領の改訂に向け、文部科学省の外国語ワーキンググループでも議論されている「AI 時代に外国語を学ぶ本質的意義」について、我々英語教師は問い続けなければならないと感じます。

生徒が英語を楽しむ 「個別最適な学び」の実践



新潟市立新潟柳都中学校 櫻井 梢

言葉では理解していても、「個別最適な学び」を実際の英語授業でどう具現化すべきか悩む声は少なくないと思います（実際に私もそうです。）本稿は「指導の個別化」の例として、レベル別学習カードの工夫を「学習の個性化」の例として、生成 AI を活用した「理想のロボット」を描き出すライティング活動を紹介します。

「令和の日本型学校教育」が求める教室の姿

令和 3 年の中教審答申が掲げる「個別最適な学び」の核心は、子どもを学習の主役に戻すことにあります。今までの一律一斉指導から脱却し、個々の習熟度に応じた「指導の個別化」と、興味・関心を深める「学習の個性化」を車の両輪として進めることが求められています。

実践①「指導の個別化」：レベル別学習カード

自由な表現を楽しむためには、基礎となる文法力の定着が欠かせません。『NEW CROWN 2』（三省堂）‘Take ActionTalk3’では電車の乗換案内が出てきます。やり取りやスピーキングテスト、入試などにも欠かせない項目です。英語が得意な生徒も苦手な生徒にも以下の項目は身に付けてほしいと考え、生徒の習熟度に応じた「レベル別学習プリント」を用意しました。

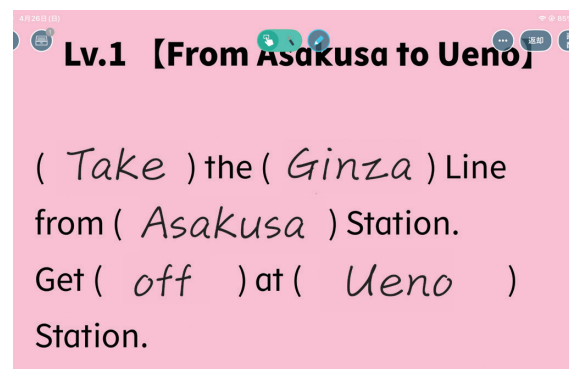
- Take the ○○ Line from ... Station.
- Then change to the ●● Line at ... Station.
- Get off at ... Station.

○英語が得意な生徒向け：日本語から英語へと自力で構築する「和文英訳」形式に。また、乗換も2回するようなワークシートに。

○苦手な生徒向け：重要事項に集中できる「穴埋め」形式。乗換を1回にして、必要最低限の文法項目で完成させられるものに。



【自作の乗換案内図】



【乗換が1回の穴埋め形式】

Lv.3+ 【From Asakusa to Shinjuku】

Take the Ginza Line from Asakusa Station.
Then change to the Yamanote Line at Ueno Station.
Then change to the Chuo Line at Akihabara Station.
Get off at Shinjuku Station.

【乗換が2回の自由記述形式】

こうしたスモールステップの支援により、英語への抵抗感を和らげ、全員が「自分の言葉」を持つための土台を整えました。また、3年生で実際に東京への修学旅行を控えているため、東京の路線図を使用することで、より生徒の興味をひくようにしました。

実践②「学習の個性化」：自分の「理想のロボット」を描き出す

『NEW CROWN 1』‘Project 2’では「理想のロボット」を6文程度の英語で説明するタスクに挑戦しました。

Step 1：ライティングと生成AIによる画像化

今まで習った文法を駆使して、ロボットの外見や機能を自由に想像し、英文を書きました。その英文を生成 AI のプロンプトとして入力します。「AI が自分の英語をどう解釈して、どんなイラストを作るんだろう？」という期待感が、生徒たちの英作文への強力なエンジンとなりました。

This is my dream robot, Super Robo.
It can move quickly. It can't write. It cooks. It speaks many languages. It doesn't fly. It's black and white and blue. Many people can be friends with it.

【生徒が実際に作成した英作文】

Step 2：想定外を楽しむリフレクション

思ってもみないユニークなロボットが出力されると、教室には驚きと笑いが広がりました。「なんか、思っていたのと違う！」など、生徒たちはその「ズレ」を楽しみ、さらに理想に近づけるために、自発的に英文をブラッシュアップしはじめました。

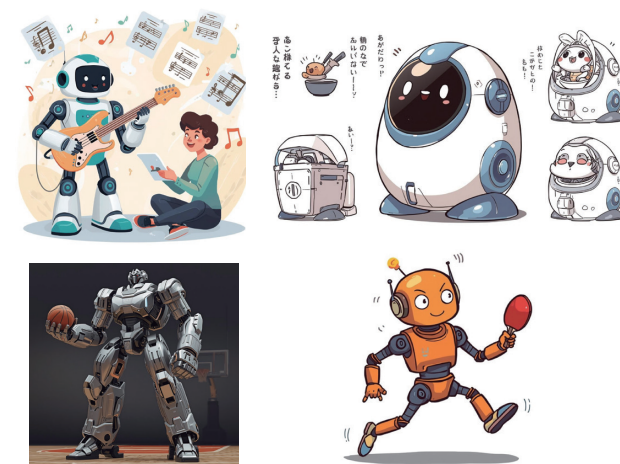


【上の英作文をプロンプトにして生成 AI が作成したロボットのイメージ画像】



櫻井 梢

新潟市立新潟柳都中学校勤務。中越、上越で勤務したのち、新潟市へ。新潟市での勤務は10年目。子どものころから犬好きで、愛犬のジュリちゃんは今年で16歳。



【生徒たちが生成 AI で作ったロボット】

協働的な学びへの発展

イラストが英文の内容を表しているため、聞き手の集中力もいつもよりも高まりました。英語を書くことに抵抗があった生徒も、自分の描いたイメージを共有することに喜びを感じ、クラス全体で多様な個性を認め合う「協働的な学び」へとつながりました。

全ての生徒が「英語を楽しむ」教室を目指して

「英語が嫌い」という思いを抱えて入学してくる生徒は少なくありません。しかし、本実践を通じて、適切な「足場かけ（指導の個別化）」と「表現の自由（学習の個性化）」があれば、生徒は楽しみながら英語に親しみ、自ら学びを広げていけることを実感しました。

今回この原稿を書きながら、改めて実践を振り返ってみると、「個別最適な学習」とは、その言葉が言われはじめる以前から多くの先生方が実践されてきたワークシートや活動、授業の工夫のことではないかと気づきました。個別最適という言葉に不安をかかえ、どんな授業をしたらいいかと迷っている先生方が、この原稿を読んで「これならできそう！」と自信と勇気をもってもらえる一助になれば幸いです。

今後も、ICT や個別の教材をさらに工夫し、一人ひとりの特性に寄り添った指導を深めていきたいと考えています。英語という言葉を通じて、全ての生徒が「自分を表現する楽しさ」を味わえる教室を目指して授業の工夫を重ねていきたいと思っています。

Profile



学びが生まれる教室に



新潟市立白南中学校 山崎 寛己

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化が重要だと色々なところで見聞します。でも、「それって一体どうやってやればいいの？」と思う方も多いのではないのでしょうか。本稿は、考え方の理解から具体的な授業のあり方までみなさんと一緒に考えることができればと思います。

「個別最適な学び」の落とし穴

そもそも、「個別最適な学び」って何でしょうか。巨理(2022)で指摘されているように、元々は経産省の答申などで使われていた「個別最適化」の意味を拡張したもので、その定義の過程が複雑で、曖昧さを含むもののようです。

個に応じた指導が必要なのは分かります。子ども一人ひとりの興味・関心、熟達度、それぞれの動機づけられた状態などは異なるからです。一斉一律の指導を見直し、個に応じた支援をする必要があります。ここで気を付けておきたいことが、「個別最適な学び」を目指した結果、孤立した学びになってしまうという問題です。ひたすら「個別」に「最適」である状態を重視するがあまり、特に言語学習に必要不可欠なコミュニケーションの相手の存在を排除してしまいかねない状態は本末転倒です。コミュニケーションは生ものであり、常にコントロール可能ではないはずです。

また別の問題として、それぞれの「学び」が「最適」である状態を、誰がどのように決めることができるのでしょうか。仮にAIなどによる学習者個々に最適化されたドリル学習だけをイメージするとしたら、あまりにも貧弱すぎる学習観です。学校は教師や多様なクラスメイトたちと、教師や生徒、教科書が投げかける「未知のもの」との出会いによって今まで考えたことのなかったことや、知らなかったことと出会う可能性のある場です。

まとめると、「個別最適な学び」には、生徒が孤立した状態にならないよう多様な他者と関わる「協働的な学び」と、常に一斉指導である状態を見直し、学習・指導の個別化を図る役割があるように思われます。

大切にしたいポイント

筆者の勤務校も含めて、多くの学校で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化した授業づくりが研修・研究テーマに掲げられていることだと思います。

手前味噌ですが、私の勤務校では【学びの選択肢がある授業】をスローガンにしています。単元指導の中で、一斉指導をする場面もちろんたくさんありますが、タスクに取り組む場面では一人ひとりが自分の力量や興味・関心に応じてオプション（選択）がある授業を目指します。2つの事例を紹介します。

①物語のリテリングに自分の考えをプラスする工夫

使用している三省堂の教科書に「Cranes for Peace」という題材があります。広島にある原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんの物語を扱う単元です。教科書のGOAL活動は長文読解ですが、平和を扱うこの単元でOutput活動もして欲しいと考えました。そこで単元課題を「幸せについて、佐々木禎子さんの物語を通して平易な言葉で伝える」こととしました。

リテリングには筆者も初挑戦で、というのも皆で同じ物語を読むのにそれを伝える必要性が今まで分からなかったからです。もしリテリングをするならば、英語運用能力の優劣を超えて、語りたくなる、聞きたくなる情報を加える必要があると思いました。【学びの選択肢がある授業】のポイントは次の2点です。

1点目は、リテリングする際に各自がICT端末で作成したシートを活用できるようにした点です。教科書の挿絵はもちろん、自分で語る際の手掛かり

になる写真やイラストを自由に入れることができます。また、英語表現も付箋機能を使って、文ではなく語句を挿入してもよいとしたことで、どの層の生徒も支援を得ながら挑戦できる環境をつくりました(図1を参照)。

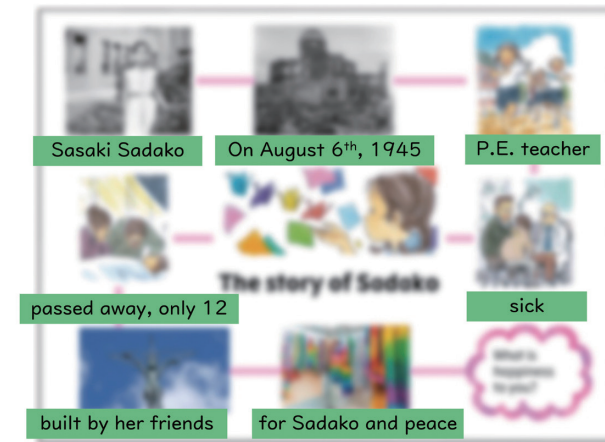


図1. 生徒がリテリングに用いたシート

※シートの写真・イラストはぼかしています。

2点目は、物語と自分の話をつなげるための仕掛けです。物語のリテリングと、自分の幸せに関する語りにはどうしても溝があり、それらをつなげる必要がありました。そこで物語を読んで理解した後、発問として“What do you think Sadako wanted to do?”と問いました。例えば陸上が好き男子生徒は、リテリングの後（禎子さんが足が速く体育教師を夢見ていたことにふれて）“I think Sadako wanted to run a lot like me. I want to join the track and field team and practice running in high school. I feel happy when I run.”と話しました。またお菓子を食べるのが大好きな女子生徒は、“My happiness is eating snacks with my friends. I think Sadako-san wanted to share and eat snacks like me. I am very sad to read the story.”と話しました。このように、生徒が感じる幸せは、今ある平和の上に成り立っており、その形もさまざまであることを自己表現できる場になりました。



山崎 寛己

1987年新潟市生まれ。上越教育大学・同大学院修了後、大阪府の小中学校で勤務し、現職に至る。中学校検定教科書『BLUE SKY』（啓林館）編集委員。『中学生が多文化共生について本気で考えてみた』（東洋館出版社）や『「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する 言語活動アイデア＆ワーク54』（明治図書）など。アマチュアサウナー。

②皆に知ってほしい国内外の差別事例について報告する
多くの教科書では人権課題について考える単元があります。「難しいから」という理由で敬遠されがちですが、学習してきた内容を用いれば十分に、社会的な話題についても表現することができます。

単元の核となる課題として国内外の人権課題について、気になったニュースや新聞記事を取り上げ、スライドを見せながらプレゼンする活動を行いました。

①感情面の説明（1～2文）⇒②事例の概要（4～6文程度）⇒③自分の考えや意見（2文）という順番で構成すれば10文程度で話すことができます。もちろん作成の過程で教師による支援や、クラスメイトとの相談、辞書やICT端末の活用も必要です。

この活動の肝は、一人ひとりが異なる事例報告をするため、「この事件はクラスの皆に知って欲しい。そして一緒に考えたい」という気持ちが生まれやすい点です。次の生徒作品は、勉強は苦手だけど世の中の課題に関心をもったやんちゃな生徒の作品です。彼がこのプレゼンを発表した時、クラス中から拍手が起こりました。

I am going to talk about human rights.
I was very shocked to read a news story.
One day, there was a gymnastics event in Ireland.
When some children get a medal, the black girl was skipped and didn't get a medal.
I think this news is very bad because it's discrimination.
All people are equal and everyone should live happily.
What do you think?

図2. 生徒作品

これからも先生方の「目の前の生徒にこんな力をつけてほしい」という思いを大切に、どの生徒にとっても学びが生まれる教室をつくりましょう！

参考文献 巨理陽一(2022)『「個別最適な学び」の何が問題か』『学校教育研究』37. pp.70-83

先生と子どものための

Fun with ENGLISH

in 新潟 Vol.3



Vol.1



Vol.2



これまでの『Fun with ENGLISH in 新潟』は
右側のQRコードよりご覧いただけます。



——知が啓く。——
啓林館

本社 〒543-0052
東京支社 〒113-0023
北海道支社 〒060-0062
東海支社 〒460-0002
広島支社 〒732-0052
九州支社 〒810-0022

大阪市天王寺区大道4丁目3番25号
東京都文京区向丘2丁目3番10号
札幌市中央区南二条西9丁目1番2号サンケン札幌ビル1階
名古屋市中区丸の内1丁目15番20号ie丸の内ビルディング1階
広島市東区光町1丁目10番19号 日本生命広島光町ビル6階
福岡市中央区薬院1丁目5番6号 ハイヒルズビル5階

Tel 06-6779-1531
Tel 03-3814-2151
Tel 011-271-2022
Tel 052-231-0125
Tel 082-261-7246
Tel 092-725-6677

<https://www.shinko-keirin.co.jp/>

中学校英語 教授用資料

2026年7月